

## 第 153 回 東久留米のブラック・ジャックとピノコ像と朝霞の綿谷新之助像

筆者：林 久治（記載：2021 年 5 月 5 日）

### （1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張っって人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要不可欠である。3月の東京都新規感染者は1日に300人前後に収まっているので、出来るだけ人出の少ない所に行くようにしている。3月7日には早稲田に行って、その探索記を[146回の記事/f](#)に記載した。3月15日には新宿中央公園を探索し、その探索記を[147回の記事/f](#)に記載した。3月27日に大久保に行って、その探索記を[148回の記事/f](#)に記載した。4月3日には、成城学園の澤柳政太郎像と吉祥寺駅前の「ゾウのはな子像」を探索し、その探索記を[149回の記事/f](#)に記載した。4月10日には、中野区の神明氷川神社に設置されている伊藤金左エ門像を探索し、その探索記を[150回の記事/f](#)に記載した。4月16日には、練馬区の荒川最勝像と中野区の舜学義堯像を探索し、その探索記を[151回の記事/f](#)に記載した。

3回目の「緊急事態宣言」が、東京、大阪、兵庫、京都の4都府県で、4月25日から5月11日までの17日間、出されることとなった。そこで、私は発令前日の4月24日に、小平市泉蔵院に設置された高木亮範像を探索した。その探索記を[前回の記事/f](#)に記載した。高木像の探索記を書いている過程で、「東久留米駅前にブラック・ジャックとピノコ像が3月10日に除幕された」との記事 ([2\) のサイト/3](#)など) を見つけた。当駅は、私の自宅に近いので、26日散歩を兼ねて銅像探索に行った。また、朝霞の綿谷新之助像は[1\) のサイト/](#)に収録されているが、基礎情報が記載されていない。当地も私の散歩範囲であるので、5月1日に本像を探索した。本稿はそれらの探索記である。本稿では資料からの引用を緑文字で、私の注釈や意見は青文字で記載する。

### （2）東久留米駅のブラック・ジャックとピノコ像

次ページの図1に、私の自宅付近の西武池袋線と西武バスの路線地図を示す。自宅から東久留米駅に行くには次の路線を利用する。①西武バスで、自宅から大泉学園駅に行く。②西武池袋線で、大泉学園駅から3駅目が東久留米駅である。

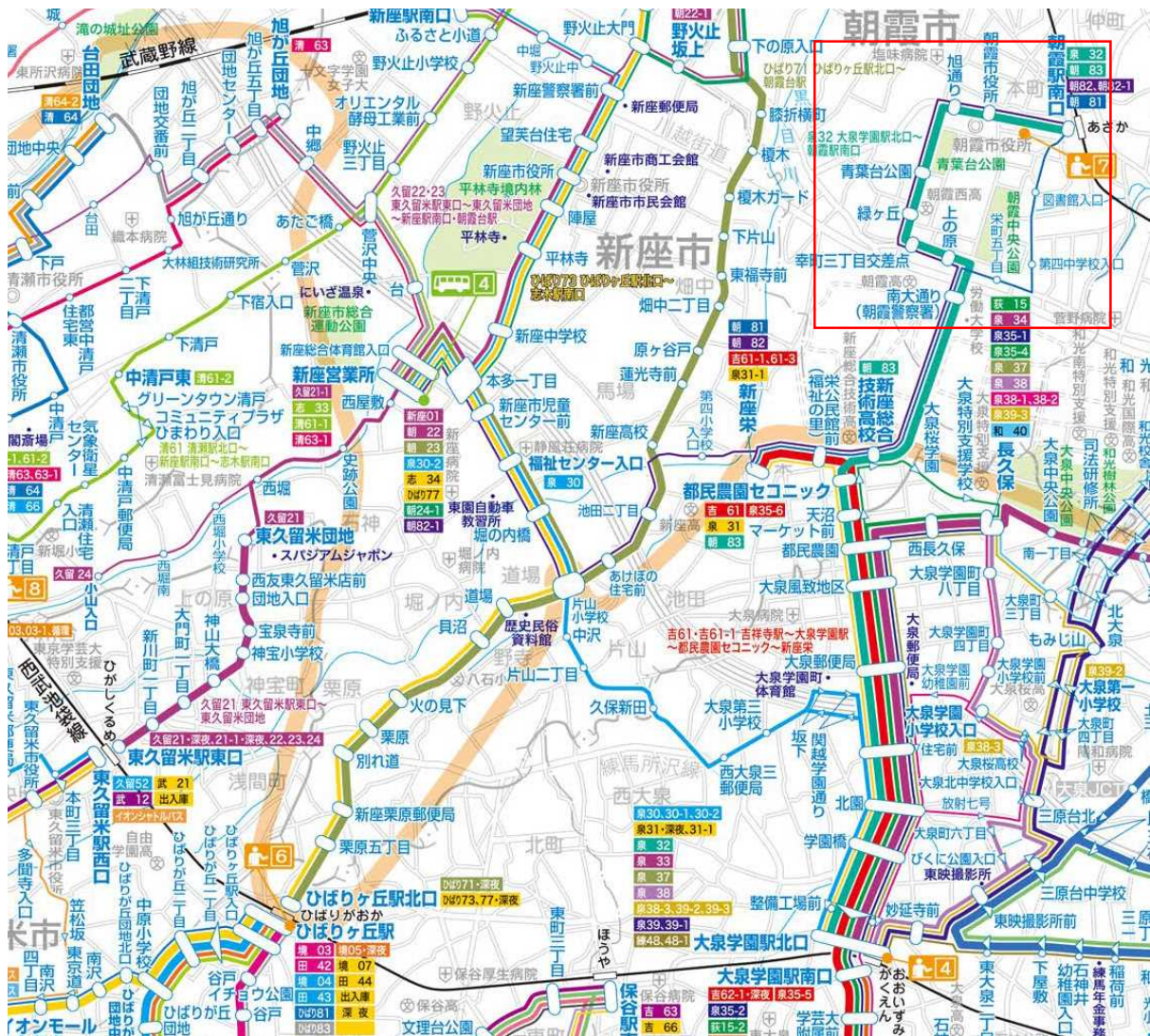


図1. 東久留米－大泉学園－朝霞付近の西武池袋線と西武バスの路線地図 本図は、[3](#))のサイト/fより借用。なお、赤枠内は図5の範囲である。

東久留米駅西口に設置されたブラック・ジャックとピノコ像の除幕式の記事 ([2](#))のサイト/3)には、次のように書かれていた。

原作者の手塚治虫さんは晩年の約10年間を東久留米市で暮らしており、市の成人式に来賓として出席し、新成人にメッセージを送ったこともあります。そうした縁から今回、市の市制施行50周年記念事業として、手塚作品を活用した地域振興が行われました。銅像は、同市と東久留米市商工会が東京都の「アニメ等コンテンツを活用した誘客促進事業費補助金」を活用して建造しました。3月10日の除幕式には、手塚さんの長男で、手塚プロダクション取締役でもある手塚真さんも臨席。新型コロナウイルスの影響で盛大なお披露目はできませんでしたが、並木克巳市長、井田清治商工会長と共に写真撮影などに応じました。銅像は、ブラック・ジャックと助手・ピノコが並ぶデザインで、サイズ(高さ)はブラック・ジャックが175センチ、ピノコが70センチ。手塚プロダクションがデザイン・制作したもので、市によると“等身大”とのこと。

(本文は、4ページに続く。)





図2.

上：東久留米駅西口に設置されたブラック・ジャックとピノコ像

下：手塚治虫のブラック・ジャックとピノコの原画  
本図は、[4\) のサイト/7](#)より借用。

ブラック・ジャックとピノコ像は、[1\) のサイト/](#)に未だ収録されていないので、地元の私が本サイトに投稿することが出来たのは幸運であった。図2上に本像を示す。図2下には、手塚治虫の原画を示す。私はブラック・ジャックの漫画は愛読した方であったが、ピノコの方の記憶は残っていなかった。



図3. 左：ブラック・ジャック像、右：ピノコ像

次ページの図4には、本像の前に設置された説明板を示す。なお、漫画「ブラック・ジャック」の説明はウィキペディアが詳しい。以上の資料より、本像の概要は次の通りである。

#### ブラック・ジャックとピノコ（東久留米市）

設置場所：東京都東久留米市東本町1-8 東久留米駅西口広場

制作者：手塚治虫の原作をもとに手塚プロダクションがデザイン・制作

除幕式：2021年3月10日午後 手塚眞さん（手塚治虫の長男）、並木克巳市長らが出席

設置経緯：原作者の手塚治虫さん（漫画家、1928.11.3-1989.2.9）は晩年の約10年間に東久留米市で暮らしており、市の成人式に来賓として出席し、新成人にメッセージを送ったこともあります。そうした縁から今回、市の市制施行50周年記念事業として、手塚作品を活用した地域振興が行われました。銅像は、同市と東久留米市商工会が東京都の「アニメ等コンテンツを活用した誘客促進事業費補助金」を活用して建造しました。

「ブラック・ジャック」(BLACK JACK)は、手塚治虫による日本の漫画作品。「週刊少年チャンピオン」(秋田書店)にて1973年11月19日号から1978年9月18日号にかけて連載したのち、1979年1月15日号から1983年10月14日号にかけて不定期連載された。全242話。無免許ではあるものの、唯一無二の神業ともいえるテクニックにより世界中に名を知られる、天才外科医ブラック・ジャックを主人公に、「医療と生命」をテーマにそれぞれ据えた医療漫画である。連載当初は「漫画家生活30周年記念作品」「手塚治虫ワンマン劇場」という煽りで、手塚治虫のスター・システムによるオールスター出演がウリの作品であり、短期間で終了する予定だったが、定期不定期合わせて10年近く続く長期連載作となり、まさに代表作となった。

ピノコは、ブラック・ジャックとともに生活するただひとりの家族であると同時に、ブラック・ジャックが全幅の信頼を寄せる忠実な助手でもある。戸籍上の年齢は実質0歳だが、いままで患者の体内で生きてきたことを理由に自分は18-20歳(話によって18歳と書かれていたり20歳と書かれていたりする)の「としごよ(としごろ)のレレイ(レディ)」だと言い張っている。



図4. 本像の前に設置された説明板

#### (4) 朝霞市の綿谷新之助像

朝霞市の綿谷新之助像は[1\)のサイト/](#)に収録されているが、基礎情報が記載されていない。当地も私の散歩範囲であるので、5月1日に本像を探索した。本像は朝霞第一中学校(埼玉県朝霞市膝折2-31)に設置されている。本校の周辺地図を次ページの図5上に示す。なお、本図の範囲は図1の赤枠内である。私は自粛期間の運動として、自宅から朝霞署前まで自転車で行き、そこから朝霞市内を散歩した。目指す朝霞第一中に到着すると、校舎の屋上から「祝 大相撲初場所優勝 大栄翔勇人先輩」との垂れ幕が架かっており、その下に一基の胸像が設置されていた。その写真を図5下に示す。(本文は、7ページに続く。)





図5. 上：朝霞第一中学校の周辺地図。本図は、[5\) のサイト/m](#)より借用。本図の範囲は、図1の赤枠内である。下：同校の玄関前。





図6. 左：綿谷新之助像、右：本像の台座正面に貼られた題板。

当日は、朝霞第一中学校の正門は開いており、門には守衛所がなかったので、私は胸像周辺を探索することが出来た。本像の写真と台座正面の題板の写真を図6に示す。題板には「綿谷新之助翁像」と書かれていた。本像の背面には「泰正作」との制作者のサインが刻まれていた。

台座背面には、銅像銘が貼られていた。その写真を次ページの図7に示す。これには、次のように書かれていた。

#### 銅像銘

綿谷新之助翁は明治二十五年三月大阪府南河内郡加賀田村に生まれ、資性豪放磊落にして仁義の心厚く希代の大器であった。昭和十年朝霞町に居を移し朝霞伸管工業株式會社を始め多くの會社を設立、高邁な見識と敏腕をもって自ら経営の任に当たり、今日の社運興隆の基礎を確立され又常に報徳精神の具現に努め、青少年の育成と地方産業の振興に寄与すると共に、朝霞町長在任中は、率先垂範、巨額の私財を投じて統合中學校、公民館の設立實現に努力する等物心両面に亘り朝霞町の發展と地方自治の進展に盡された功績は實に偉

大なるものがある。ここに翁の人格を欽慕しその功績を永く後世に伝えるためにこれを建つ。 昭和三十七年七月二十五日 朝霞町 銅像製作者 高村泰正

(なお、明治25年は1892年、昭和37年は1962年である。ウィキペディアによれば、1932年5月1日に町政を施行した埼玉県新座郡朝霞町は、1967年3月15日に市制施行により朝霞市となった。)



図7. 台座背面に貼られた銅像銘

[1\)](#) のサイト/は「当サイトは日本全国の銅像を網羅するデータベースの礎となることを目指しています」と公言している。それにしても、当サイトに収録されている銅像の殆どは、銅像写真と設置場所しか記載されていない。それでは「データベースの礎」とは、とても言えない。最低限、銅像周辺に存在する情報（像主の題名、像に彫られた制作者のサインや制作時期、台座に貼付された銘文、銅像近くに設置された案内書など）を出来る限り収集して保存すべきである。特に、有名人ではない市井の人物は、ネット検索をしても、彼らの経歴は殆ど残っていない。もし銅像に銘文があれば、それが唯一の経歴書となる場合が多い現状である。



本像の銘文は、半世紀以上経過した現在でも、良質に保存されている。これは、銅像管理者の丁寧な手入れのお陰である。せっかく銘文が貼付されていても、長年の風化で判読不能になっている（あるいは、不能に近づいている）銅像が少なくないのは残念な現状である。綿谷翁の場合も、翁の記事はネットで少なく、翁の経歴も収録されていない、従って、本像に貼付された「銅像銘」が貴重な資料となっている所以である。

しかし、綿谷翁の経歴を知るためには、本銅像銘だけでは不十分である。本文を読むと、次のような疑問が湧いてくる。

①なるほど、翁は朝霞町長として、中学校の建設などに尽力したことは分かる。それ故に、翁の胸像が本中学校の正門に設置されているのであろう。しかし、翁の町長在任期間は不明である。また、具体的にはどのように尽力されたのであろうか？

②本文では、翁は1892年に大阪府に生まれ、1935年に朝霞町に居を移し、会社を設立したそうである。しかし、その間には、翁は何処で何をしていたのであろうか？どんな学校に行ったのであろうか？当地に会社を設立した理由や資金調達など、疑問点が多い。

③多分、本像の建立時には、翁はご健在であったのであろう。従って、翁の没年月日は不明である。翁が起業した会社は、現在はどうなっているのか？

以上のような疑問を抱きつつ、翁の記事を検索すると、次のような記事があった。

① [6\) のサイト/f](#) : 本サイトは「朝霞第一中学校の歴史」である。本サイトの初頭に、次のように書かれている。

学校ができるまで：校門に入ってすぐの所に建つこの胸像は、元町長の綿谷新之助翁で、「よりよい環境で、立派な教育を子ども達に」の願いのもと、自ら一千万円を寄付し、町民や全国に散っている朝霞市出身者からの寄付も募りました。また、小中学校の家庭に、毎日十円貯金の実行を訴え、銀行融資の基金としたり、赤十字からの寄付も受けるなど、約二年間にわたり、市ぐるみの運動を進めました。このことが県当局や文部省の理解を深め、昭和32年の新校舎設立に必要な土地、建物の資金約一億円を起債並びに、補助金を受けることに成功しました。

成程、これで綿谷翁の活躍ぶりが具体的に理解出来た。

② [7\) のサイト/f](#) : 本サイトは、朝霞市のHPの「朝霞市主要年表（朝霞町誕生から）」と題する欄である。本欄に次のような記載がある。

1955年5月：町長選挙（綿谷新之助氏当選）

1959年5月：町長選挙（綿谷新之助氏再選）

1961年3月：町長選挙（川合信春氏当選）

以上の記載より、綿谷翁は1955年5月から1961年3月まで、2期6年間朝霞町長に在籍していたことが分かった。2期目は、任期途中の退職である。その理由は何であろうか？病気や事故による辞任、あるいは死亡されたのであろうか？兎も角、翁の没年月日は不明である。私は、今次の「緊急事態宣言」が終結すれば、朝霞市図書館に行って、翁の学歴や没年月日を調査する予定である。

③ [8\) のサイト/](#) : 本サイトは、株式会社ASTRANSのHPである。本欄に次のような記載がある。

株式会社ASTRANSは1935年に伸銅製品製造販売業者「朝霞伸管工業株式会社」として埼玉県朝霞市に創業いたしました。2007年からは不動産賃貸業に業種転換をし、朝霞市、新座市の土地を中心に事業展開をしております。また、2009年から新たにレーシングカート

の車体並びに部品の輸入及び販売業、2015年からはエンジェルインベストメント事業、2017年からは北欧ガーデニング事業を開始いたしました。2019年に新しい企業として船出をしていく決意を込めて「株式会社 ASTRANS」に社名変更をいたしました。

1935年に綿谷翁が創業した「朝霞伸管工業株式会社」は伸銅製品製造販売業者から2007年には不動産賃貸業に業種転換をし、社名を変更している。しかし、経営陣は綿谷一族が務めている。このように、時代に即応した業種転換に成功すれば目出度い。

以上の資料より、綿谷像の概要は次の通りである。

綿谷新之助（朝霞市）

設置場所：埼玉県朝霞市膝折 2-31 朝霞第一中学校正門内

設置時期：1962年7月25日

制作者：高村泰正

設置経緯：銅像台座の銅像銘より

綿谷新之助翁（1892-?）は明治二十五年三月大阪府南河内郡加賀田村に生まれ、資性豪放磊落にして仁義の心厚く希代の大器であった。昭和十年朝霞町に居を移し朝霞伸管工業株式會社を始め多くの會社を設立、高邁な見識と敏腕をもって自ら経営の任に当たり、今日の社運興隆の基礎を確立され又常に報徳精神の具現に努め、青少年の育成と地方産業の振興に寄与すると共に、朝霞町長在任中は、率先垂範、巨額の私財を投じて統合中學校、公民館の設立實現に努力する等物心両面に亘り朝霞町の發展と地方自治の進展に盡された功績は實に偉大なるものがある。ここに翁の人格を欽慕しその功績を永く後世に伝えるためにこれを建つ。

（5）綿谷新之助像の追記（2021年5月19日）

今回の武漢肺炎の緊急事態宣言のため、私は銅像探索を自粛している。しかし、運動のため、自宅付近の散歩を行っている。昨日、私は朝霞市にある朝霞伸管工業株式會社の工場跡地に歩いて行ってきた。[8\) のサイト/](#)に記載されているように、同社は2007年には不動産賃貸業に業種転換し、2019年に「株式会社 ASTRANS」に社名変更している。

そこで、私は朝霞伸管の広大な敷地がどの様に変化しているかを探索した。その結果、工場跡地の一角（朝霞市膝折町 2-21）に「綿谷」との表札のある邸宅を発見した。この邸宅には、新之助の子孫がお住まいのことと思われる。そこの庭園には、私が秘かに期待していた通り、綿谷の胸像が設置されていた。本像をフェンスの網目越しに望遠撮影した写真を次ページの図 8 に示す。本写真より、本像は朝霞第一中学校に設置された胸像（図 6 左）と同型であることが分かった。本像の題字には「初代社長」の肩書があるので、朝霞伸管工業株式會社に設置されていたと思われる。



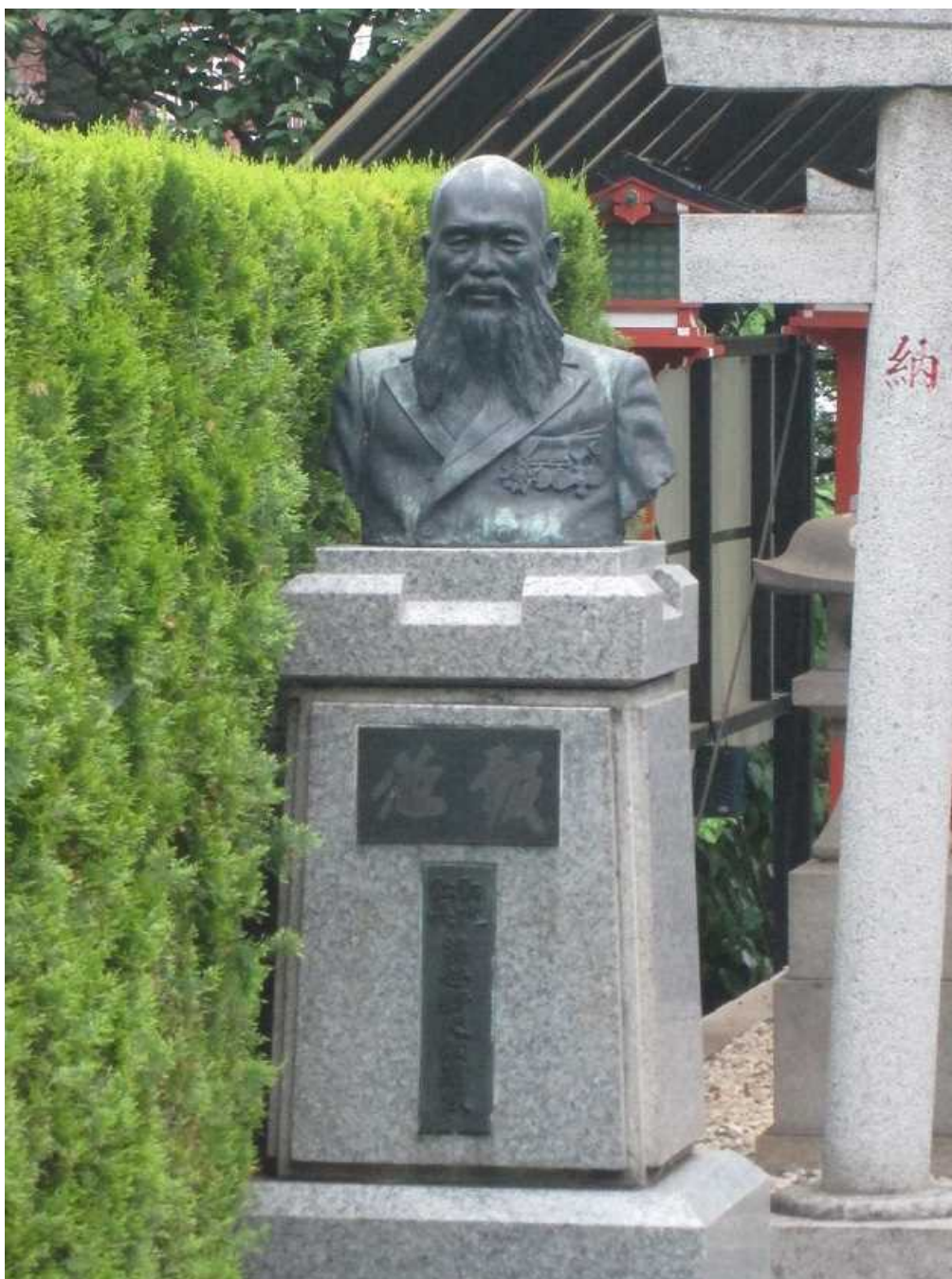


図8. 綿谷邸の庭園に設置された綿谷新之助像

参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<https://www.town-t.com/?p=17603>
- 3) のサイト：<https://www.seibus.co.jp/docs/rosen/rosenzu/map01.pdf>
- 4) のサイト：<https://www.town-t.com/?p=16387>
- 5) のサイト：  
[https://www.mapion.co.jp/m2/35.79155423,139.59101562,16/poi=ILSP0000053648\\_ipclm](https://www.mapion.co.jp/m2/35.79155423,139.59101562,16/poi=ILSP0000053648_ipclm)

6) のサイト : <http://www.asakadailchu.city-asaka.ed.jp/pdf/gakkou/rekisi.pdf>

7) のサイト : <https://www.city.asaka.lg.jp/uploaded/attachment/7248.pdf>

8) のサイト : <http://www.astrans.jp/>